

# 日経産業新聞

2007年(平成19年)

7月24日  
火曜日

NIKKEI BUSINESS DAILY

## Techno online

イタリア人は交通信号を守らないといわれている。ナポリの友人は「赤信号は止まることを単に推奨しているのだ」といつていた。しかし、交差点での事故は意外と少ない。

自動車も歩行者も信号を守らないことを前提に注意して渡るからだ。日本では青信号で横断している際に事故に遭うことがある。信号を守れば絶対に安全だと教えられ、無防備に渡るからだろう。

技術や工業製品に「絶対安全」は存在しない。電力会社や政府は、原子力発電所が「絶対安全」であるという前提に立つと、重大な事故が発生した場合に被害を最小限に抑える対策の検討も十分でない。また、重大事故につながる不具合事例を発表できず、炉心損傷などの致命的事故を起こす可能性も否定できない。「絶対安全」に「本当の危険」が潜んでいる。飛行機に搭乗すると、安全に対する説明と緊急脱出のデモンストレーションが離陸時に行われる。これは、常に危険が存在することを乗客・乗

## 原発、事前対策万全に 安全過信 最も危険

務員に喚起するのに役立っている。

世界初の英国ジェット旅客機は、胴体の疲労破壊で墜落した。この事故原因については徹底的に調査され結果は公表されて以後の安全設計につながった。現在は、事故や不具合データを機体メーカーが総括的に蓄積し、それを安全運航に活用している。また、離陸時のエンジン停止など、重大な事故に備えた二重三重の対策が考えられている。

新潟県中越沖地震で東京電力柏崎刈羽原子力発電所の直下まで活断層が伸びている可能性が指摘されている。私たちは、技術が「絶対安全でない」ことを認識し、人類の英知で危険をコントロールすることによって、便利な社会生活を送っていることを再認識する必要があるのではないか。

また、小さなトラブルの開示や情報の共有化、重大事故発生時の対策を絶えず考え、「本当の危険」を回避することが求められている。

(東北大学流体科学研究所  
教授 円山 重直)